

2020年度（第45回）学術研究振興資金 学術研究報告

学 校 名	旭 川 大 学	研究所名等	
研 究 課 題	看護の学びを動機づけるアーリー・エクスポージャーの 検討と実践ー地域共生社会を見据えた看護の知と実践 をつなぐ教育への応用ー		研究分野 教育 学
キ ー ワ ー ド	① 学習 ②動機づけ ③知識 ④看護実践 ⑤アーリー・エクスポージャー ⑥地域共生社会		

○研究代表者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
泉 澤 真 紀	旭 川 大 学 保健福祉学部保健看護学科	教 授	研究責任者

○研究分担者

氏 名	所 属	職 名	役 割 分 担
栗 田 克 実	旭 川 大 学 保健福祉学部保健看護学科	准 教 授	調査協力 量的・質的分析協力
升 田 由 美 子	旭 川 医 科 大 学 医 学 部 看 護 学 科	教 授	データ収集
宮 地 普 子	北 海 道 医 療 大 学 看護福祉学部看護学科	准 教 授	データ収集
盛 岡 淳 美	北 海 道 科 学 大 学 保健医療学部看護学科	講 師	データ収集
吉 田 香	日 本 医 療 大 学 保険利用学部看護学科	講 師	データ収集
江 本 千 晴	北 海 道 文 教 大 学 人間科学部看護学科	助 教	データ収集
岩 田 直 美	名 寄 市 立 大 学 保健福祉学部看護学科	助 教	データ収集

看護の学びを動機づける アーリー・エクスポージャーの検討と実践 —地域共生社会を見据えた看護の知と実践をつなぐ教育への応用—

1. 研究の目的

本研究は、看護教育における早期体験実習（アーリー・エクスポージャー：以下、EE）の導入が、看護学生の学習の動機づけに有用性があるかどうかを検討し、地域共生社会に対応できる人材の育成ができるよう看護教育への示唆を与えることが目的である。

本研究は、当初3年間で教育への導入予定がコロナの影響を受け実質2年間の研究計画となった。そのため学習困難の実態調査の結果の検討とEEのプレ試験導入を最終的な目的とした。

2. 研究の計画

(1) EE導入を検討するためのプレ試験体験の準備と実施

地域におけるEEを実際に看護学生に体験してもらい、その体験の効果を対象者へのインタビューを通して質的に抽出する。

- ①対象者：EEを体験した看護学生
- ②調査時期：2018年9月～2019年12月
- ③調査方法：フォーカス・インタビューグループ、実体験のナラティブレポート。
- ④調査内容：a. どのような体験をしたか
b. 体験で印象に残っていること
c. 体験前後で考えたイメージの違い
d. 保健医療福祉についての課題、他

(2) 看護教育におけるEEの検討に入る前に、学びの視点から学習上のつまずきや困難さにおける実態を調査する。特に学生の学びに困難性を示す専門基礎科目（解剖生理学や病態学等）が看護に結びつく契機や、学習の動機づけの手がかり、困難さの原因を明らかにする過程を調べる中で、EE導入への糸口を探る。

- ①対象者：北海道11施設の看護系大学に依頼、同意を得られた施設の看護学生約500人程度
- ②調査時期：2020年4月～2021年3月
- ③調査方法：質問紙調査
- ④調査内容：a. 属性（性別、年齢、学年、入学時の状況）
b. 看護師志望理由、看護学実習の体験場所
c. 学習意欲、学習の動機づけ
d. 学習を続けていく中での困難、不安や悩み等

3. 研究の成果

コロナ禍で計画を2021年まで延長した成果は、以下である。

(1) EEに向けてのプレ実践

- ①2018年8月に2年生5名の看護学生を対象に、地方の体験学習をEEとして実施した。フォーカス・グループ・インタビューの結果、【地方は不便で劣ったイメージ】、【不意な契機から地方に興味・関心が突起される】、【地方や地域の実態が見え考えはじめる】、【地方医療の衰退に気づく】、【地方を知ってもらい対策を共に考える】の6つのカテゴリーが抽出された。このようなEEを通して、より積極的に低学年から看護学に関する出来事を、体験を通して関わることを通し、看護に対する興味・関心がさらに深まり、学習意欲を高める結果となった。
- ②2019年8月に2・3年生4名の看護学生を対象にEEを実施した。その後学びの体験をナラティブにまとめることでEEの効果を検証した。「（母性病棟で）赤ちゃんを抱っこさせてもらう経

験は、私にとってものすごく大きな体験でした。実習前にこんなことをさせてもらえるなんて思ってもみなかった。気持ちを楽にして質問もできて、すごくよかったです」「(高校生へのプレゼンテーションを通して) ついこの間まで自分たちもそうだったなと思い出し、こうして身近に感じる分、この子たちに私たちが手助けできることがあるかなと、この子たちが少しでも未来を描けるようなお手伝いができればと思いました」「(卒業生との交流で)手術室で働く先輩から、“手術室が楽しい”と聞いたとき、そう思える日が来るんだと思いました。やっけていて経験を積んだらやりがいが見つけ出せる現場ってすごいなと。私たち教科書で勉強しているだけではイメージがつかないです。現場を見ることはやはり大切です」以上のように、EEは机上の学習にはない体験を通してさらに看護に対する学習意欲を高め、自分のなりたい看護師像に近づき看護を推進していく力になっていることがわかった。

(2) 全道の看護系大学に「看護学生の学習上のつまずきと困難」を知るうえで、学習意欲と学習の動機づけに対する質問紙調査を依頼した。本大学を含めた6大学から回答を得た。6大学におけるまとめはこれからである。

本大学における質問紙調査については、

- ①看護学実習は、医療施設と福祉施設で行われており、実習以外の現場体験はボランティアやサークル等であり、その体験者は全体の2割弱であった。
- ②看護を目指す志望の動機は、経済的安定、社会性・将来性、看護への興味・関心で全体の約8割を占めていた。将来が見えずとりあえず看護に進んだ者も5%いた。
- ③学習の動機づけでは、現役生よりそれ以外の者の方が、外敵調整が有意に低かった。学年別では外敵調整に有意な差はなかったが、1年生は内発的動機づけ、同一化的調整、取入的調整が上級生よりも有意に高かった。
- ④学習意欲は、現役生より現役生以外の者が有意に積極的関与や継続意志が高かった。
- ⑤学習への興味・関心といった内発的動機づけよりも、むしろ職業として学ぶべき内容としての同一化的調整によって高く学習が動機づけされていた。反対に他人に言われて勉強するといった外敵調整は、他の動機づけに比して低かった。

以上の調査は、コロナ禍の影響を多大に受けているため、多くの臨地実習が中止されている中での調査であった。そのことを加味する必要があり結果の一般化には限界がある。

4. 研究の反省・考察

3年間の実施計画であったが、2020～2021年度はコロナの影響を多大に受け、1年間の研究費資金を2年間に切り替え実施した。さらに各大学への質問紙調査の受け入れが進まなかったことと、EEとしての積極的な実践現場体験もコロナ禍では断念せざるをえなく、教育への応用にまでは結びつけることはできなかった。

(1) EEに向けてのプレ実践

EEのプレ実践については、本計画以前より着手していたため、(1)の成果を待たず先進的に進めることができた。それにより対象者のインタビュー調査からEEの効果を検証することができた。しかしながら本研究のこの期間内では、それ以降の教育的導入には至ることはできなかった。今後も継続して検討を重ねる予定である。

(2) EEの検討前の学習意欲や動機づけに関する質問紙調査

2020年からのコロナ拡大により各大学へのアンケート依頼と受け入れが非常に困難になった。一部web調査に切り替えたが、他施設の受け入れのハードルが上がり、結果的に各大学の共同研究者に依頼し、6大学より回答を得ることができた。しかしながら各大学はコロナ対応に追われ、質問紙調査票回収がかなり遅れた。分析においては、本大学における集計にとどまり、6大学による集計はこれからである。今後大学生の学習の困難さとEE導入に向けての示唆を得る予定である。

5. 研究発表

(1) 学会誌等

泉澤真紀 : Insufficiency of nursing care and education in an aging society with low birth rate—Ethics and education of nursing that supports the OTAGAISAMA power for better living in a community society with symbiosis—、日本看護倫理学会誌、12 (1)、p72-24、日本看護倫理学会誌、2021

(2) 口頭発表

①泉澤真紀 : 看護学生が地域を見て知って体験して—早期体験学習としての地方・過疎地を見て看護に活かそう、日本看護倫理学会第13回年次大会（島根県松江市）、2020（コロナ禍により抄録発表）

②泉澤真紀 : 地域包括ケア時代に看護学生が地方で学ぶ看護の体験—看護カリキュラムにない、知的な好奇心に会う経験を通して、日本看護研究学会第46回学術集会（北海道札幌市）、2020（コロナ禍により抄録発表）

③泉澤真紀 : 看護大学生の学習継続のための学習意欲・動機づけに関する研究、日本看護研究学会第47回学術集会（宮城県仙台市）、2021（コロナ禍でオンライン開催にて示説発表）

④泉澤真紀 : 看護学生が地域をみて聞いて感じて—地域を学ぶ体験学習、日本看護学教育学会第31回学術集会（愛知県名古屋市）、Best Practice Competition参加、2021（コロナ禍でオンライン開催口説発表）

(3) 出版物

①泉澤真紀、山崎陽弘、他3名 : 地域を学ぶアーリー・エクスポージャーの役割—看護学生が過疎地域の道東根室地域をみて聞いて感じたこと、看護教育、61 (8)、p 762-769、2020

②泉澤真紀、栗田克実 : 看護大学生の学習継続のための学習意欲・動機づけに関する研究、旭川大学研究紀要、13、p19-26、2021

③泉澤真紀、栗田克実 : 看護大学生による道東根室圏域の体験学習からの学びと効果—地方・過疎地における医療の課題を見据えて、旭川大学研究紀要、14、p37-43、2022